

SDGS 巨大マーケットに挑む

CO2資源化プロジェクト

～ ゼロ円で参加するスキーム ～

1.目的	P.3~4	8.参加概要	P.13
2.実施内容	P.5	9.参加の要点	P.14
3.先端技術の例	P.6	10.寄付ポイントの例	P.15
4.先端技術の組合せ例	P.7~9	11.社会貢献事業について	P.16
5.CO2からHへ変換	P.10	12.計画	P.17
6.地域創生	P.11	13.まとめ	P.18
7.地域創生のビジネスモデル	P.12	14.アイリスク研究所(株)について	P.19



CO2を削減する方法にCO2を資源として有効活用することを目的にします。
大量に発生しているCO2を処理する方法は地中奥深く埋設する計画があります。
しかし、CO2は資源になることの発想を実現します。
また、温暖化対策を進める為のコストが膨らむ「移行リスク」を回避します。
CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) の活用の幅を広げます。

主たる既成の思考

CO2を地中に埋める

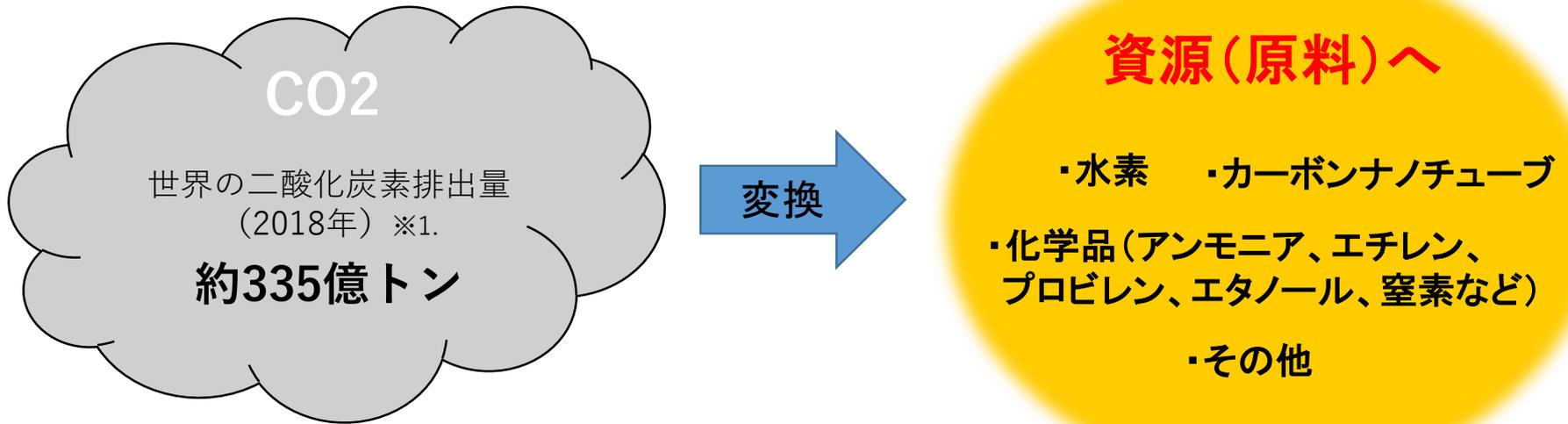


当プロジェクトの発想

CO2を資源に転換し有効利用
カーボンリサイクルの実現



CO2を資源（原料）化へ



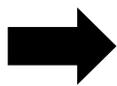
**資源の大きなマーケットがあります。
CO2を有効活用するビジネスを創出します。**

⇒ SDGs(気候変動対策)の取り組み

※1.JCCCA (ジャッカ、全国地球温暖化防止活動推進センター <https://www.jccca.org/>) による。

実験室（Laboratory）ベースの先端技術の実証プラント建設を行います。
CO2の資源化において、商業化ができる技術を検証します。
まず、多くの先端技術の中から商業化が見込めるものを選別します。
次に、選別した技術のプラント建設を行います。

CO2の提供は火力バイオマス発電事業者から提供を受けます。
当発電事業者はカーボンニュートラルからカーボンをマイナス化にすることが出来ます。

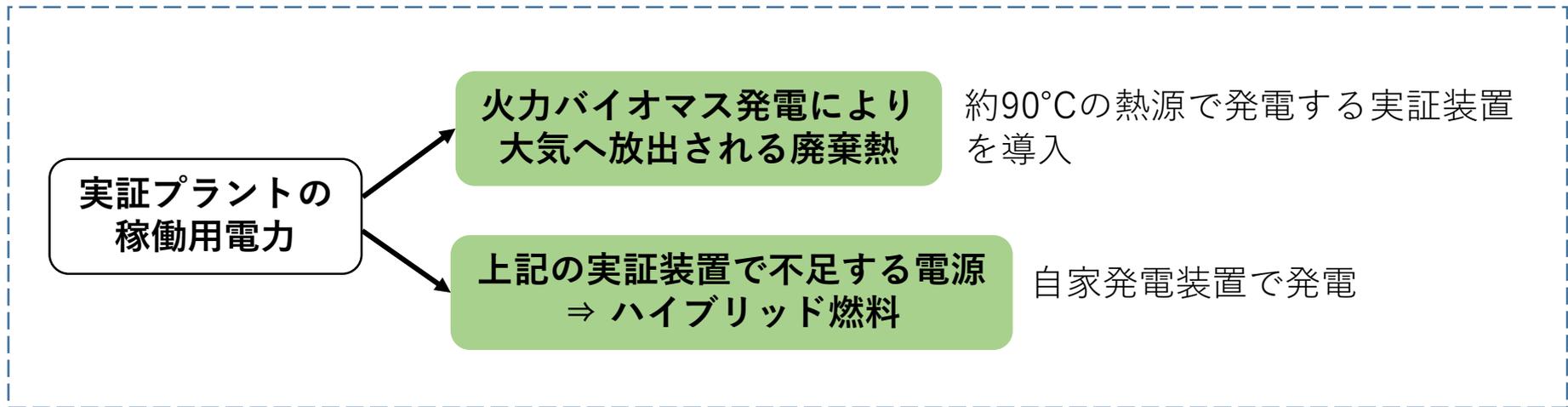
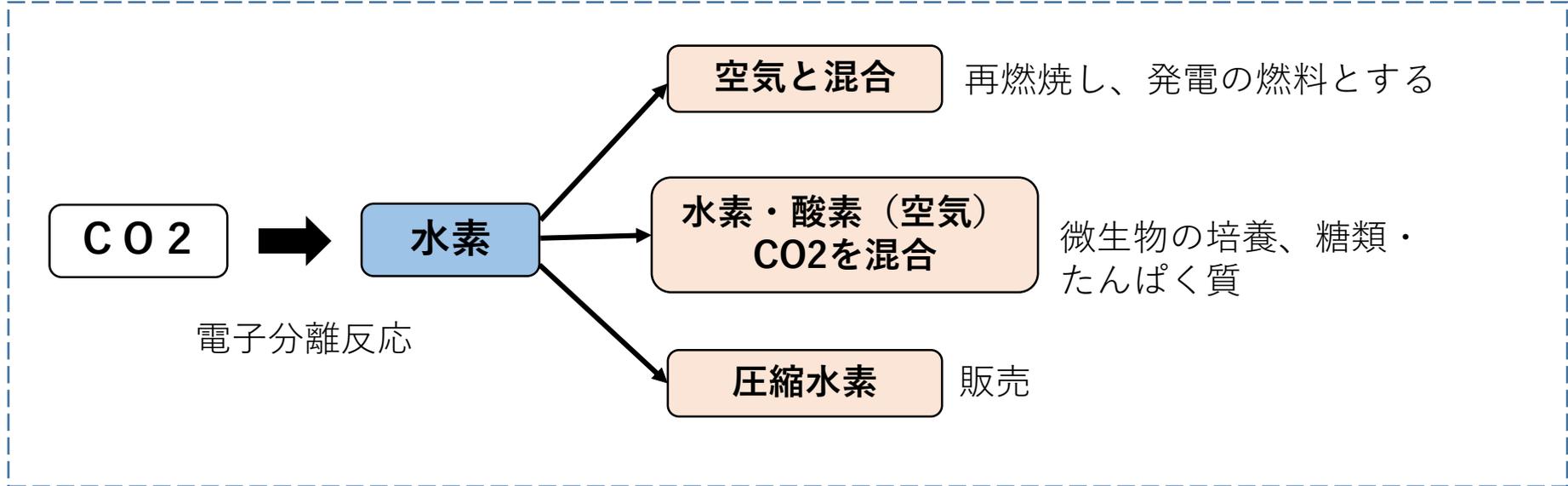


**商業化へ向けて
「0」（ゼロ）から「1」を創り出すプロジェクト**

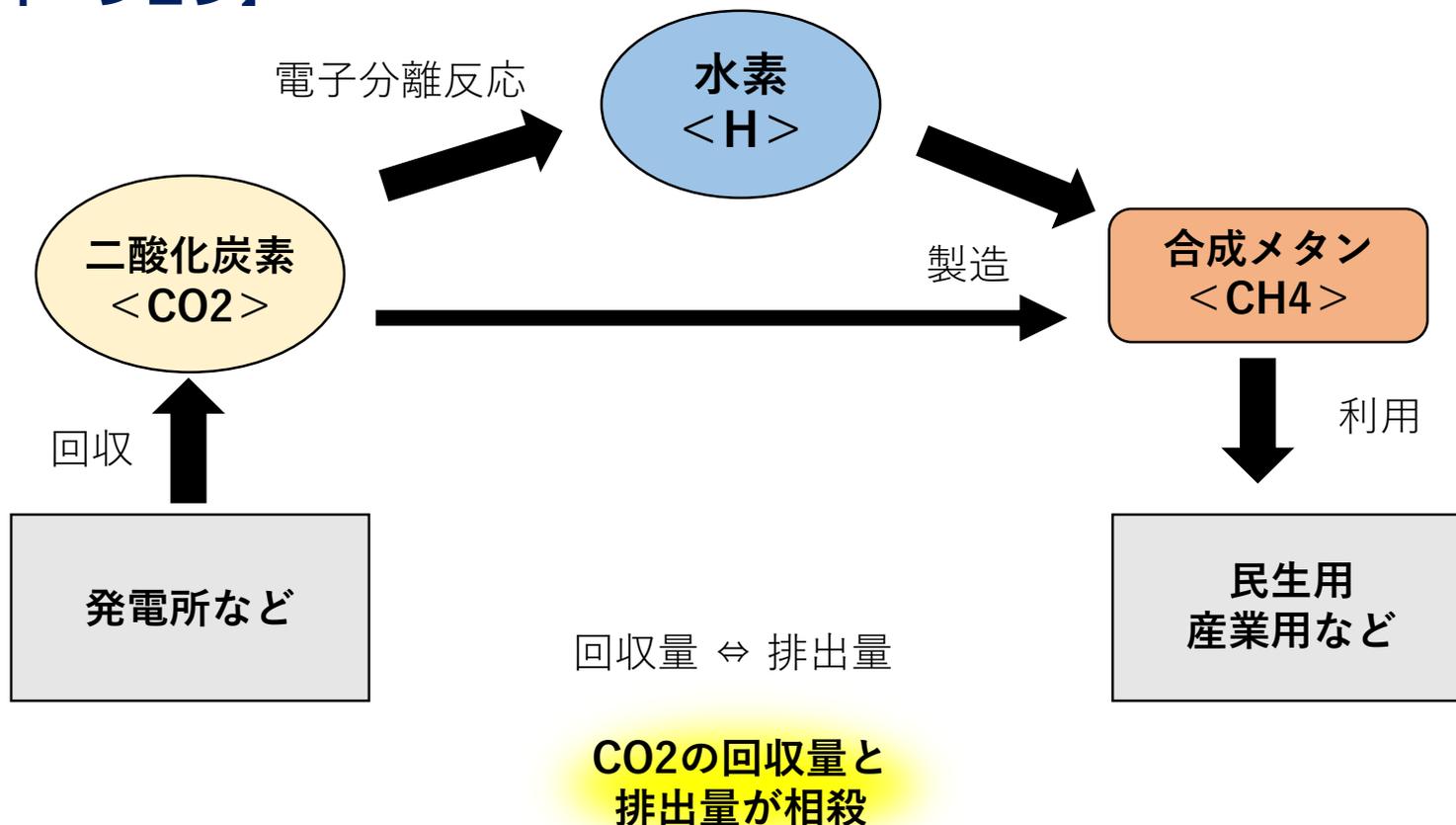


1. CO2を水素へ変換する。
⇒水素社会の実現。
2. CO2を餌にして成長する微生物の培養。
⇒高質なたんぱく源。糖類の原料。世界の食料に大きなインパクト。
3. CO2から各種化学薬品へ変換（アンモニアなど）。
⇒CO2を放出しない薬品に変化。
4. 従来の燃料より約70%CO2を減少させるハイブリッド燃料を精製。
約30%排出するCO2は分離回収する。
5. カーボンナノチューブの製造。
⇒他業態の先端技術を促進させる素材。



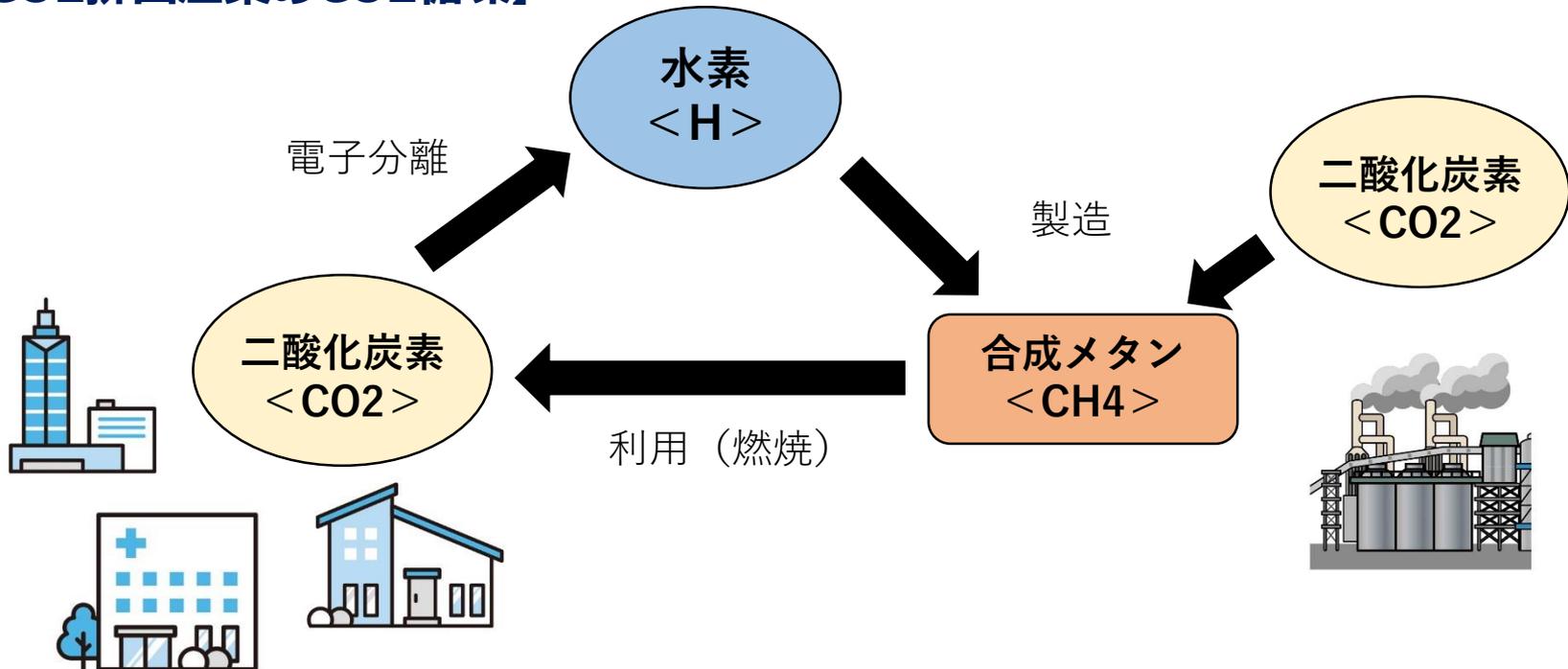


【メタネーション】



回収されたCO2と合成メタンの利用（燃焼）によるCO2は相殺（オフセット）されるので、**合成メタンの利用ではCO2は増加しない**

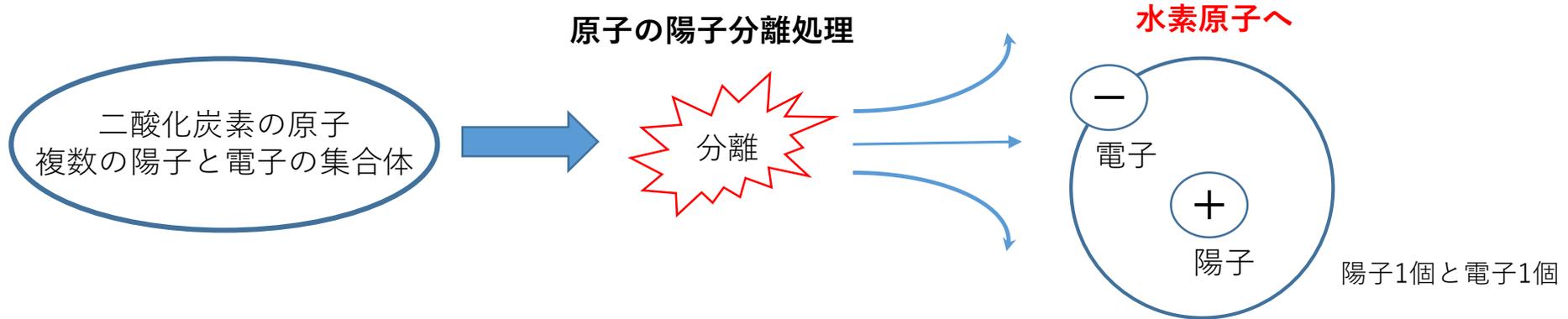
【CO2排出産業のCO2循環】



主要CO2排出産業（発電所・製鉄所・製紙工場など）は、自社で排出したCO2から水素を発生させ、メタンを合成する（合成メタン）。その合成メタンを自社で消費する。発生したCO2は合成メタンヘループ（循環の輪）する。

CO2（二酸化炭素）からH（水素）が発生する事象について

CO2の陽子が分離されることで水素原子が発生している。



原子番号について

原子中の陽子の数を「原子番号」と言います。

例えば、水素原子は陽子を一つだけ持っているので原子番号は「1」です。

酸素原子は陽子を8つ持っているので原子番号は「8」です。

陽子と電子の数は同じなので水素原子は1個、酸素原子は8個の電子を持っています。

- ※ 当説明は、CO2からHが発生している事象について考えられる現実を説明しています。特殊な電子顕微鏡などで観察を行ったものではありません。日本で当事象を研究している機関はありません（弊社調べ）。

電力事業と他業態の融合

- ・ バイオマス発電所 ⇒ 農業生産と一体化
- ・ 排熱利用 ⇒ 気温を一定に保ち野菜を生育
- ・ CO2利用 ⇒ 微生物を培養し、糖類、人工肉、家畜飼料などを製造する
人工肉などは地域の特産品の加工製品化へ
先端技術製品の製造



CO2を排出しない火力バイオマス発電は、再生エネルギー発電（太陽光・風力など）と同様以上の環境効果が発揮されます。

発電の原料となる木材等がCO2を排出せず吸収したままとなるので、CO2の削減へ繋がります。

- ・グリーン電力を用いるホテル、旅館などのトラベルプランパッケージ
- ・グリーン電力によって生育した野菜の販売
- ・グリーン電力によって生産された産物の特産品化など



「参加」とは、当プロジェクトを「応援する事」と定義します。
参加企業（者）は「**応援パートナー**」となります。

【 期 間 】 2021年10月1日 ～ 2026年9月31日（5年間）

【 参 加 条 件 】 ①社会貢献事業で寄付ポイントが10万ポイント以上の法人※2
②アイリスク研究所(株)より参加を承諾された法人

【参加メリット】 ①当実証プラントは、世界先端テクノロジーを導入します。
参加者は、当プロジェクトから得る開示可能な情報をいち早く入手し
ビジネス化へ共創の取組みが出来ます。
②参加者は、ビジネスへ活用する為の相談をアイリスク研究所(株)より
無料で受けることが出来ます。

【参加者募集期間】 2021年10月1日 ～ 2022年12月31日
アイリスク研究所(株)が実施する社会貢献事業である「寄付金ハートフル
キャンペーン」と同じ期限。

[寄付金ハートフルキャンペーン | ベスト経費削減.com \(bestcostcut.com\)](https://www.bestcostcut.com)

※2. P.13「寄付ポイントの例」、P.14「社会貢献事業について」を参照。

参加企業（応援パートナー）は、当プロジェクトへの資金提供を行いません。
当プロジェクトの趣旨に賛同いただき、参加企業（応援パートナー）自社の経費削減を行います。※3

経費削減の結果について、アイリスク研究所(株)が所定の条件よりポイント化・資金化を行います（寄付ポイント）。
寄付ポイントはアイリスク研究所(株)が行う社会貢献事業から付与し、アイリスク研究所(株)の自己資金で資金化を行い、慈善団体等へ寄付をします。



参加企業（応援パートナー）は自社の経費を削減することで、当プロジェクトに参加が出来ます。

【ご留意】

1. 経費削減した資金は、100%内部留保していただくことが出来ます。
2. 当プロジェクトは、経費削減した資金を使用しません。
3. 当プロジェクトの参加料は不要(ゼロ円)です。



※3. 経費削減手続きは、アイリスク研究所(株)が無料で行います。

寄付ポイントが100万ポイントである場合、寄付金100万円になります。

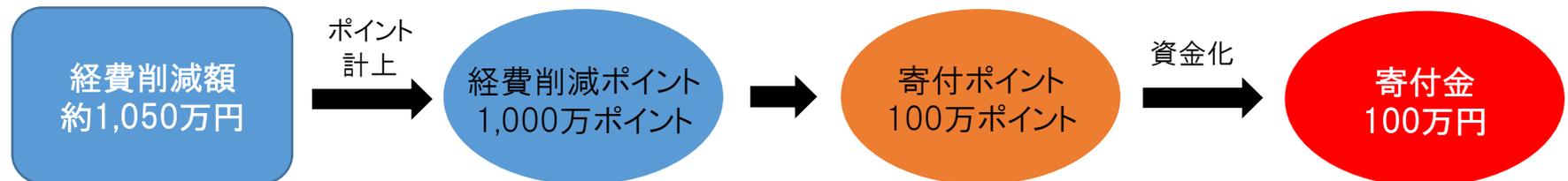
当寄付金はアイリスク研究所(株)の資金から拠出します。経費削減を行なった企業は資金を拠出しません。

経費削減額が約1,050万円の場合、経費削減ポイントは1,000万ポイント

※アイリスク研究所(株)がポイント計上します。

寄付ポイント（経費削減ポイントの10%）⇒ **100万ポイント**（1,000万ポイント×10%）

「1ポイント=1円」でアイリスク研究所(株)が資金化 ⇒ **寄付金100万円**



当事業は地域経済の振興を目的に行う慈善事業です。

地域内に資金が循環する仕組みをアイリスク研究所(株)が無償で提供します。

アイリスク研究所(株)は報酬をいたしません。

アイリスク研究所(株)が資金提供をするスキームです。

[地域経済振興 社会貢献事業 | ベスト経費削減.com \(bestcostcut.com\)](#)

[寄付金ハートフルキャンペーン | ベスト経費削減.com \(bestcostcut.com\)](#)



- 【活動計画】
- ・ I 期(1年目) 実行計画準備 1億円
 - ・ II 期(2年目～3年目) 実証プラント建設 10億円
 - ・ III 期(4年目～5年目) 世界各地に実証プラント建設 100億円

- 【資金調達計画】 社会貢献事業による経費削減額方式※4を導入します。
(経費削減額＝アイリスク研究所(株)の資金による投資)
- ・ I 期 経費削減額 1億円
 - ・ II 期 経費削減額 10億円
 - ・ III 期 各種ファンド(国内外)から調達 100億円

※4.アイリスク研究所(株)が応援企業の経費削減額と同額を当プロジェクトの投資資金として拠出します。

1. 当プロジェクトは、SDGsの目的を遂行する先端技術の実証プラント建設です。
2. CO2を資源とし、有効活用を行います（カーボンリサイクル）。
3. 当プロジェクトの実施費用はアイリスク研究所(株)が行う「社会貢献事業」により資金調達を図ります。
4. 参加企業は、経費削減を図りその資金を自社で100%内部留保し、さらにゼロ円（無料）で当プロジェクトに参加出来ます。
5. 地域創生事業とするビジネスモデルが可能です。
6. 脱炭素ビジネスについて、当プロジェクトから開示可能な情報を優先して入手し、世界へ向けた脱炭素ビジネスの共創に取り組むことが出来ます。

「財務戦略」 「営業戦略」 「人材の育成・能力開発」 「経営リスク対策」 「海外事業」

この5部門を専門とした事業戦略コンサルタント会社です。

これら部門をコンビネーションし、目的の実現へ導きます。

CO2資源化プロジェクトは、アイリスク研究所(株)が実施します。

会社名	アイリスク研究所 株式会社
	代表取締役 川合 秀博
住所	〒060-0042 北海道札幌市大通西6丁目5番地4 第58山京ビル201号室
電話	011-211-1656 (川合直通：070-6601-2720)
メール	kawai-hid@airai.jp
URL	https://www.bestirisk.com/ https://www.bestcostcut.com/ https://www.bestzaimu.com/